

石破氏ら台湾総統と会談

8/14(水) 8時

超党派議員団 安保巡り意見交換

【台北＝龍元秀明】台湾訪問中の自民党の石破茂元幹事長ら超党派の国会議員団は13日、頼清徳（ライ・チンドオー）総統と台北市内で会談した。対中国を念頭に、安全保障や経済分野の日台協力を巡り意見を交わした。総統府によると、石破



13日、頼総統と会談した自民党の石破氏（台北市）＝総統府提供

氏は「きょうのウクライナはあすの東アジア」との見方に触れ、民主主義陣営が協力して抑止力を発揮する必要があると訴えた。9月の自民党総裁選をにらみ、得意とする安全保障の分野で存在感を示す思惑もありそうだ。

頼氏は中国がインド太平洋地域の平和に脅威をもたらしていると指摘し、台湾には民主主義陣営とともに地域の平和を守る決心があると強調した。軍備の自主開発や調達を通じ、自衛力を高めると言明した。

「台湾と日本は互いに助け合うパートナーだ」

と述べ、8日に起きた日向灘を震源とする地震にお見舞いを伝えた。民主主義国との経済関係を強めたいとし、台湾の環太平洋経済連携協定（TPP）加盟に支援を続けるよう日本側に求めた。

議員団は超党派の「日本の安全保障を考える議員の会」のメンバーら6人で構成され、石破氏と教育無償化を実現する会の前原誠司代表が共同団長を務める。

自民党の中谷元・元防衛相、長島昭久元防衛副大臣、立憲民主党の渡辺周元防衛副大臣、衆院会派「有志の会」の北神圭朗衆院議員も会談に参加

した。

議員団は12日には蕭美琴副総統と会談し、アジア太平洋地域の平和維持や、議員交流の強化などについて話し合った。14日まで台湾に滞在する予定だ。